

奈良・藤原宮跡
ふじわらきゅう

- 1 所在地 奈良県橿原市高殿町
- 2 調査期間 一 二〇〇四年(平16)一〇月～二〇〇五年一月、
二 二〇〇五年一月～二〇〇六年一月
- 3 発掘機関 奈良文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部
- 4 調査担当者 一 代表 金子裕之・安田龍太郎
二 代表 安田龍太郎
- 5 遺跡の種類 宮殿・官衙跡
- 6 遺跡の年代 七世紀末～八世紀初頭、九世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
一 第一三六次調査
一九九九年より実施している藤原宮跡大極殿・朝堂院地区における再調査の八回目である。今回の調査地は朝堂院東第六堂にあたり、調査面積は二〇六二㎡である。
主な検出遺構は、藤原宮直前期における掘立柱建物、東第六堂とその関連遺構、平安初期の屋敷地などである。
東第六堂は東西棟切妻造の瓦葺き礎石建物で、桁行一二間(二四尺等間、約四九・三m) 梁行四間(身舎一〇尺等間、南北両廂の出各九尺、約一一・二m)である。建設に際しては、基壇予定地をめぐるよう

に、幅五〇cm深さ五〇cm前後の溝を掘削している。これらの溝は排水の機能に加え、水を張って建物の水準を得るための機能をもたせた可能性がある。建物が完成すると、溝は人為的に埋め立てられ、基壇外周部全体を整地した後、礫が敷かれている。

木簡は、東第六堂の東側に掘削された南北溝SD一〇二〇三から五点(すべて削屑)出土した。SD一〇二〇三は、右に述べた藤原宮造営期に掘削された溝の一つである。共存遺物には、造営廃棄物である大量の瓦片・木材はつり屑などがある。

二 第一三八―二次調査

調査地は藤原宮跡の内裏及び内裏東官衙地区にあたる。市道の拡幅と路肩整備に伴い調査を実施した。調査区は四区に分かれ、発掘総面積は五五九㎡。木簡はC区から出土した。

C区で検出した主な遺構は、内裏東外郭を画する南北堀、南北棟建物、南北溝などである。木簡は藤原宮の南北基幹水路である東大溝SD一〇五から一点出土した。SD一〇五は、幅約四m深さ約七〇cmを測り、東西の護岸に柱もしくは杭を用いた痕跡がある。溝の埋土は三層に分かれ、中・下層は砂や木屑が層状に堆積した状況を示しており、その中に木簡が含まれていた。上層は藤原宮存続時の人為的な埋土で、その上にはガラスが敷かれている。ガラスの下からは藤原宮期の土器が多く出土した。

なお、本調査区外の東大溝SD一〇五からは、過去にも多くの木

簡が出土している(本誌第五・一〇・一一・一三号)。

8 木簡の釈文・内容

一 第一三六次調査

(1) □ □

091

長さ五七mm幅二〇mmの削屑であるが、釈読不能。他の四点はさらに小型で、わずかな墨痕が確認できるにすぎない。

二 第一三八―二次調査

(1) □ □ □ □ □ □
[中] [中]

(8)×(28)×3 081

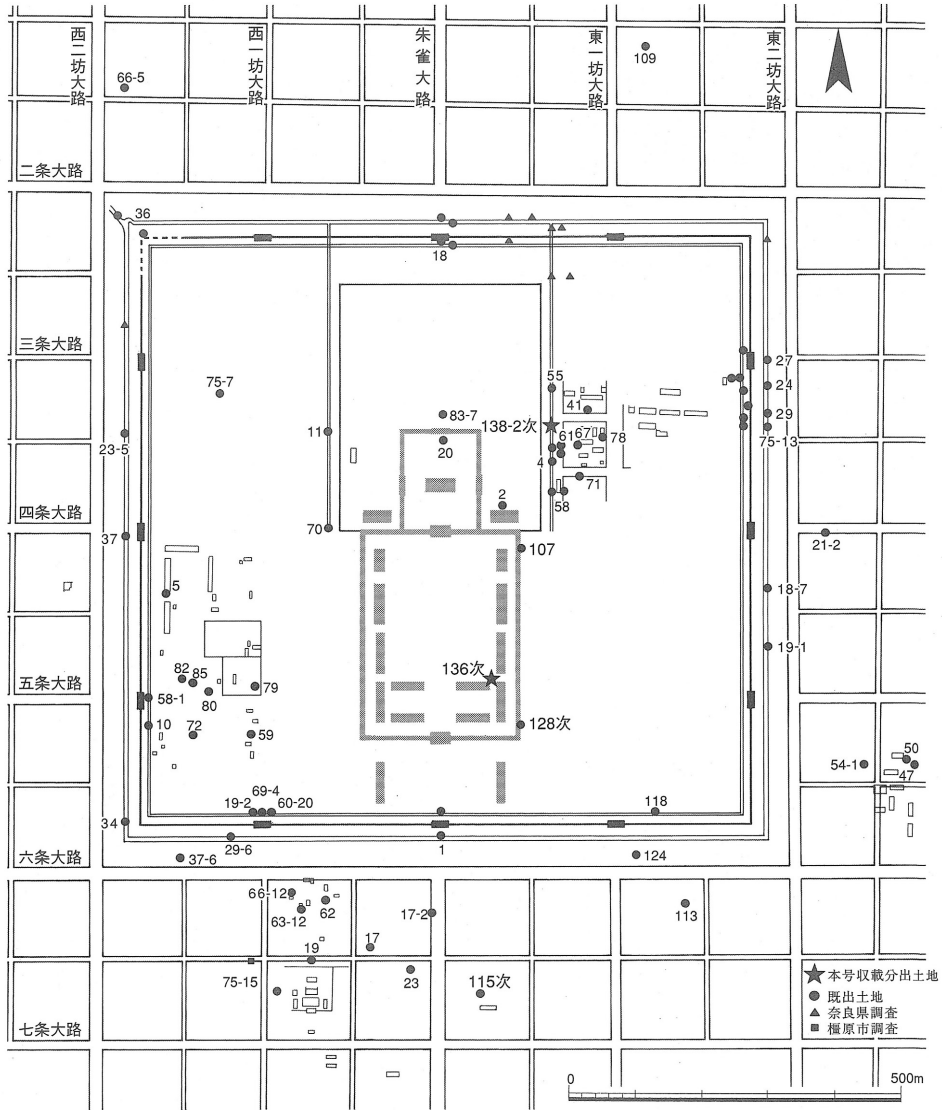
横材で、四周欠損。釈読できる文字は、中央下の一字のみ。一見「己」「己」にみえるが、中に点があること、文字の頭に「ク」のくずしを確認できることなどから「色」と判断した。全体の内容については不明。

9 関係文献

奈良文化財研究所『奈良文化財研究所紀要二〇〇六』(二〇〇六年)
同『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報』二〇(二〇〇六年)

(市 大樹・竹本 晃)

2005年出土の木簡



藤原宮跡及び周辺木簡出土地